

冬肌の知恵
【荒れ編】
家計の知恵 広告特集

聞きました

冬肌トラブルの大きな原因のひとつは空気の乾燥。口元や皮膚のほかに、肌を保護する皮脂が出てくると乾燥が進みやすすぐと乾燥がひどくなったり。かかと、肘下も要注意。特にすねは気づいたら「粉ふき肌」になっているケースがよくあります。

石けんでこしこし洗わないこと。体全体に言えること。

みがかゆみへ発疹さらに知
方薬が必要な湿疹に悪化す
る可能性もあります。

醫師、專門・美容皮膚科

1 物理的な光の反射

光線が表面に当たると、反射します。この反射が、肌の表面を照らすことで、光沢感を生み出します。

2 角化作用による細胞縮小

角質を作る能力が低下、乾燥して元気がなくなった細胞は、角化作用によって、角質層が厚くなり、細胞が小さくなります。

3 3D効果による光の反射

角化作用によって、細胞が小さくなり、凹凸が生じます。この凹凸が、光を反射することで、光沢感を生み出します。

少ない。特にすねでは元々、
すねに皮膚が薄く、そこに
とすべこになつてしまいま
す。またお風呂では湯温が
高いほど皮膚が失われやす
くなるため、ぬるめのお湯
に長時間つかうように。
粉ふきのセルブツ剤
では、ペーリン類似物質を
含むクリームなどに効果が
あります。ただし赤みやか
ゆみが出た一方は、早めに
皮膚科にご相談ください。
保護、そして洗わない。
ぬるめのお湯、長時間、こ
の三つの王で美しいすね
を保ちましょう。

尿酸の特徴は角層を溶解すること
かかと、ひじなどの角層が厚い部位や
角層が堆積した部位に対して効果を登

	皮膚の厚さを増し、上方から押しつぶす(角質)	皮膚の厚さを増し、内側から押しつぶす(角質)
手順	アトピー性皮膚炎、乾性皮膚症	湿疹がなく、角質層が薄い。
部分	まぶた、顔、外陰部、関節の伸縮が困難な部分、皮膚の乾燥が著しい部分	かかと、ひざ、手首、皮膚の乾燥が著しい部分
状態	乾燥、皮膚の厚さが薄く、また、かゆみ等の症状	皮膚のターンオーバーが速く、乾燥が著しい部分の乾燥

藤田先生の監修のもと作成された、皮膚科専門医のアドバイスがあるペーパーには保湿効果のあるバランシア類似物質を処方するが主流になっている。

皮膚科専門医のアドバイスは、1対1の皮膚炎などには対応している。

め角層が薄い部分の乾燥やアトピー性皮膚炎など

む人の声に答えている。

ヘパリン類似物質とは？

「リベアクト」に配合されている有効成分「ヘパリン類似物質」は、保湿や血行促進効果があるとして、従来から医療用医薬品に使われてきた。しかし今回、油田模範堂では、この成分に角化機能の正常化を助け、しっかりした角層を作る効果があることに注目。すねの乾燥が進む悪循環を止める成分として「リベアクト」に配合した。

とを健康的な状態
に導く治療薬を発
売した。

「リベアクト」は、塗りやすくべたつき感の少ないクリームタイプで、開発の原点である使い心地のよさと効果を併せ持っている。すねに多く見られる粉ふき肌や乾燥肌に適した治療薬として、すねの乾燥に悩

水分失われやすく

「こうした悪習慣によって引き起こされるのが、冒頭のよなな肌トラブル。一般的に、皮膚水分量は、男よりも30代をピークに低下していきとされている。30・40代の女性を対象としたな池田模範堂の意識調査によれば、乾燥が気になる層位としてすねを挙げる人が多く、すねの表面がひび割れて、めくれ上った「粉をぬり」の状態は、すねの乾燥に悩む人のうち8割以上が経験している。

うねの表面がひび割れてめくれ上がる

すねの表面がひび割れてめくれ上がる……

A woman with short dark hair, wearing a light blue tank top and white shorts, is sitting on a light-colored wooden floor. She is holding her right knee with both hands and looking down at it. The background is a plain, light-colored wall.

皮脂腺が少ないすわは、体の中でも特に乾燥しやすい部位

すねは肘や膝などと違い、曲げ伸ばしなど関節が屈曲しないため、気づかないうちに症状が進行してしまいがち。毎日の保湿はもちろん、入浴前や着替える際にちゅエックする習慣をつける、早めにケアするようにすね向けの治療薬も心かけたい。

すね向けの治療薬も

では、粉ふき肌などを改善するにはどうしたらよいのだろうか。この場合、肌は保湿機能やバリア機能を失い、自力では回復できない状態になっている。そのため、単なる保湿だけでなく肌の機能を元から回復させることが大切だ。

- 部位別・症状別ケアを提案

研究・開発ストーリー

10月、冬の乾燥肌トラブルに対して、部位別・症状別のケアを提案する池田模範堂が、すねの粉ふき肌などを治療する医薬品「リペアクト」を発売した。開発が始まったのは2005年。思い入れから始まり、以来、乾燥肌を細胞レベルから治すこと、特にすねの粉ふき肌などを修復することを目標に研究が進められてきた。

開発開始から約6年後、目指す製品が完成。有効成分「ヘパ

リン類似物質」で保湿しながら肌の角化機能の正常化を助け、「パンテノール」で肌細胞に元気を与え、「アラントイン」でひび割れを修復するというトリプル処方で、粉ふき肌な

細胞膜の流動性や可塑性を確保

細胞膜に与える

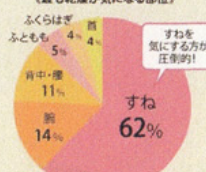
細胞膜

細胞

細胞

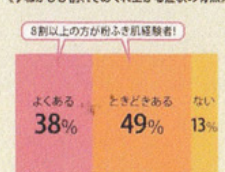
早めにケアを

すねの肌の表面がひび割れてめくれ上がる「粉ふき肌」。乾皮症や魚化症の治療薬で早めにケアを



（広い範囲の肌を乾燥が
「非常に気になる」30～40代の女性 37.3% 保湿効果を実感）

《すねがひび割れてめくれ上がる症状の有無》



(30~40代のすねの範囲で
「肌堂に困っている」女性、n=106) 池田健太郎調べ

すね向けの治療薬も